なほ進でしてゐる、その銃後を辿る國民にとつて、最も恐懼。或激し奉るのは、 億國民景仰のうちに昭和の聖春第十三年を迎 へさせられたのである。皇后陛下、 られる、大ぎに御近狀の御一端を疏記して、御日常を拜察しなる く戰猛の新春を詰がせられたと派る、北支に江南に、皇軍將士は硝煙のうちを全も 皇太后陛下、皇太子殿下をはじめ添り、義宮、照宮、孝宮、順宮各殿下にも御機嫌よ 麦那事變の最中に、 畏くも玉體極めて御壯健、天機御麗はしくわたらせられ、一 天資御英邁、 允文允武の《天皇陛下には、めでたくも寶算御三十八、國を舉げての - 聖上陛下の御精願の御日常、御邑塾なるその御經院の御態度であらせ



至型よるに関り、脳内同胞と共に 領部の無利を祈り、

腹海萬里の異域に戈をとる鳥軍將

「東車の禍根を斷つの大栗的計園に 兵の辛苦、宗穆に征士の武辺を祈 は関系の不真、人類の内積である る人々の心情を想うて母頭特に感一に外なられことは今夏祭説の要を一 や中酸を鯉て耐寒の節に及んだ。 的切なるを配ゆるのである 謂ふまてもなく親ひ 略碁の季に起った支那市

製は今

|あらず、我が隠滅却つて支那常年 泉辺の諸島を

> **一部に於ける属の政治的中心が低に** 政権と化し去った今日、吾人は支

風、関策であつて、日海「日露暦」するのであつて、今次帯観を聖職」に戈を吹むべからざらは首を吹たり、声明しての間間や上流する皆一年末で和祖を突まるをあてず直と「告げたるものにあらずして、容易 を借にすることが人類の理想であ り、同時に我か図民性に發する図。平和の根礎を定むるを以て本訂と 能ふべくは之を避けて関係の和顕一て繰返さしむるが如き原因を按照 の如き似禍を東盟民族の犠牲に於 人子孫の睦合に進りても再び斯く 見ない、即ち近き将来は勿論。音 歯と似にアジア興隆の理想を同じ るのであるが、蔣一派が長江上流くする其の民衆とに在ることを知 授行する限り、事要は勿論終地を の際部なる雄戦的騒擾勢力と 造取しつよる依然外刀倚頼によ

の選ず所として感徴に堪

坤奥一轉、軍闘多事の裡に新泰一大役の助機も自衛及び東頭全局の 介石政権は完全に消失せり、假令 共の経験に似たるもの存在する。

南京の陥落によ

基いて一駆彼の反省を促すの**種**旨 の自念見迹を加へしむるに及び、 である、道回事題も亦此の例外に 情に田でたことは史の明部十 平和を擁護すべき貸に已むなき事

一個する所以製つて此にあるを知一ず、我では

近しつく、猫々ない塚

「のみ我の管理を促し得るのであっ

せんとする二、三列國

の築団なる結束と、外景が あって克く隘時到度に本来 此の天業恢弘の 國民族政府を料消せ 四枝取の下、内にな

(1) で、検証民歌の間に発われた。 ので、検証民歌の間に結構され来い ので、検証民歌の間に結構され来い

日本では、「日本のは、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本では、「日本のは、「日本では、「日本では、「日本のは、「日本のは、「日本では、「日本のは、「日本のは、「日本のは、「日本のは、「日本のは、「日本のは、「日本のは、「日本では、「日本では、「日本のは、「日本のは、「日本のは、「日本の くさであって、誰し平と至ったことは前に脅心がら世界文明の擁護に 貢献する所大なるを発

國策を中心として東亞に 如く我が帝國

た学島民衆の生帝に福祉を齎されやかなし、他而此の地位はまれかをなし、他而此の地位はまれが中島は多くの意味に於て一致が半島は多くの意味に於て一 以て東洋安定の指導的立場を理各人共に日本國民たるの針持を投運に属して使命を辱めざる様 なる民族財和と平和の祈機構造 ち日、獨、禦、支に互る道義的は徭々重からざるを得ない、即して朝鮮の古むる原位と使命と である、原内宣民は宜しく此のざれば巳まぬ機運を提供するの

戦勝の鎌光に輝く年 解して志向を高遠にし以てアジ ,建設のために全幅の努力を何

とは、武に

2世命と之を貫くの質力

の名質を示し來ったこ

では同胞殆ど悉く帝國総を行ふ時に答り、我

際家の声優たると同時に

開献を特殊するの所以 統治史上の瞬間的事品

Bの機光に使ってきもの。に所想を披迦する所以である(絵) 記は蓋より未だ完態を撰。に對して監悟を新にするに除り特 『主義より未だ完隆を撰』に針して張信を親にするに除り称。のである、施政二十七一頭、事變の長期化と時間の頼観と ずして強盗しました忠誠愛國の 神神に内鮮一性を以てする國民 辞神は内鮮一性を以てする國民 神神に内鮮一性を以てする國民 此の限りに於てその張度を加へすべく、我が帝國の國力は今や一直人心の相合致せる現場とも申

督以下各官信代表官民多数祭列の

リートトートトトートー 恰かに 此の傾向、此の る所であります。
る者として、只管整旗に構へされるに外ならず、雄政の局に在

るものであります、殊に一般美と帰颖とを立證して、政の態勢は、眞二我が國 た半島同胞の川に則止上隔靴推揮の協を禁じ

相擁し以て、武運の長久を祈願して止惑の萬歳を祝ひ率ると共に、一億同胞 國臣民は、均しく九重の天を拜し、

戰勝に輝く歡喜の春を迎へ、我等皇

そ正義の何であり、典戰の何であるか

る使命を挤ひ、限りなき皇恩に浴しつ の貫徹を期する我等阜國臣民の幸福を

生薬帯國一貫の精進を以て、卓戦

我等の子孫も亦これに

關かる

と非に、島軍の研設したる体統を 発き人の 犠牲は必ず中国是 淡行 (悲しく 真宝の) 頭索を誇ざ率るりまして、 事種に排いれつとある 機関改まりては「戦場の春を河」歴に対する動物的なる大気化であ

の成果によって酬ひられるものた

るを信ずるのであります。即ち

さるにしても、

斯の如き宏遠維大な

政務總

監

野

以て聴戦の戦果を完態ならしむら

に努めればなりませれ

先般獨 達の成人は、

皇國臣民ノ誓詞

私共へ心ヲ合セテ天島四下ニ忠義ヲ私共へ大日本帝國ノ臣民デアリマス

扱ジ

ざるところのものである。世界は今こ

に大義を貫通する弾戦は、

未だ皆て見

つて覚醒の眼を開くであらう。

ばならぬ。

而して世界は初めて之によ

断の如く文字通りに、人類平和のため

山村耕花畵伯筆

東洋平和の榮光そのものであつて、

ものであつて、

人類に歴史あつて以來

葬の何であるかを如實に天下に示され 土を願現することによつて、典職の の育成を挟けて昌祭幸福に浴せしむる 味するものである。即ちれ等は新支那 の重大性愈よ加はるとはこのことを恋 遠いとを覚悟しなければならぬ。時局 ねばならぬ。從つて順職終結の目も亦 は遺憾ながらその日の甚だ遠きを思は を認識すべき時である。然し乍ら事實

とせ、に、東洋の平和を確立して皇道樂

胞年頭の所懷、此の他に何ものもない。 世紀に逍遙しなければならぬ。 一億同 はて、赤誠以て偉業 の光樂を有するものである。我等は深 思へ。この偉業は我等の祖先も亦之に

第一所に同院信息及び別里の批析「不動の主義の上に保護すべきの味」

所に野達して、東班民族の職等 一紀、今こと此の國是の目標とする

間の下に決意

吾人四民は此の

了古の親史に一大光芒を放って国 点を顕指し、其の動々たる厳果の

が北陸。母に至る腹頭に放て示され

て東洋平和雑誌の便命に任じ、 が帝國が、明治大帝の聖典に基い

き許多の**健性**を排む来って約半世

日支間の戦が頻遊以来 た息軍の勝倒的勝利は、世界

後を使嗾する悪魔の退散をも暗示する である。

支那階懲の職は、

實にその背 **紀細亞に昌榮と幸福とを豫言するもの** さし昇る昭和十三年の旭日は、質に

私央へ驱査鍛錬シテ立派ナ强イ関氏トナー三、我等最同臣民へ認善鍛錬力ヲ鉴ヒ以テ皇マス 一、我等、息國臣民ナリ忠盟以テ君國ニ和ゼ ラ固クセン・我等島岡臣民へ互ニ信愛協力シ以テ開始 「共ノニ」 今時はると相大き、見朝より夜、│節後には、御親り神前に今大八事 た。「探客に重用を目されて御下間」せ給にず、過ぐる十月の神経費の

昨秋の生

ける風歌、水飲から |を探して恵男を教しつくある こ | べたて恵華 | 手へ捧い逃げて旅日まみ ロラ うれしょ

力中華民國公民省を促し連に京雄 | 毎日を以て配った所に辨及機割等

平和を確立せんとするものに外一、抑制が担りました。又陳邦海州

-との御斎峡の加盟例な一度は種園以来はいことを数するに

宝つて、國基宣言・己言治外法權

「柳野して清師」制度を整備し、

信日月馬利しいい

り傾かせられてゐた のため、御籍制止

労善の砂盤に卸用値、陸延軍大學 | 打十二日には、世間戦災にもよれ

の御沙状あり、四月 動山の様がに手を

え動語を騙はり、また 昨代十一

上を思召されて河仁部

はじめ各種樹枝の卒業式に行幸

の風勇士

尼里子 山縣 品於 化剛敢神受者下神風和

し、同月廿日には不番を認った上

山江南各地の戦闘に大連を収めた「和提携して宗宗永道の王和の基礎 「乙職果をお言めた壮支皇軍」到 | 電車を光質して網番的連展を否

て居る。高二代が国見たる日前安

この方面の陸権軍将兵に対しても

)軍務政務に御精勵の御日常

瓦解、字地内閣の流遊、将内閣の あらせられてはと、恐禁する様で の御多端、御多代に玉體に御除り であつた。そしてまた師軍将、御政権なで、この一事をもつてしても は質に一再ならずあつた、 へは昭和七二年もま た多事多端であった 四十二四日常 が備しるの 念面都 側近一後行はせられた御運動、ゴルフ、 テニス、御魔好心御原馬古へも全 御呼び寄せの照官様楽官様方と 理察されるであらう、御夕食前後、 体端の正むなきにいたり、毎日午 軍事事一行政法等の調道訓は **脊非御暇あらせられないために神** く御中止の有様と称するだに長き 御日隅の御黒間、県国会、旅法、 陛下の昨今における神を忙さか

ないつれる 降下部

思

を探して、たけん

院議会、林内閣の組命な五解、近一局陛下を卸たづねに行命の御事も よいとまる理せられず、次いで職一つくさせらるべく大官師所に泉太観に一階下には、常様を安んに給「はされるのがせいぜいで御家養を 成立と、めまぐるしく原則の學成一點の容子をニュース映画で御門遊 典に、卓軍將士の破獄における道

観された厳情橋の安州事

前令に だっまで、 御間関連はされ 大帝が日都職役中という 目を通され下紙官吏の異なら叙任 職。孫小衛日の福館院定例本会議 御召替をいとはせられず、一々親 同しわたる御正復。御通常優装の 事題物が上ラ外、今天事類 々洋湖南磯坂、御倉原遊ばされ、 つた、また日間・東北、陸世人 方図内心御政務に隠する内閣上 「軍令に属する師統師事項を」

こる御多代中も、宮

行はせられ、明治三十八年 明治 さるでき御恒例の御歌倉站の僕を(明春・駒湖 |神苑朝] を御披郷 た北雅な御僕も、御鎌軍通り行は せられ、鉄炭の赤縄こめた民草の、 れた敗島の道の御機関をかね

大本質に終ても、面熱 れたが、事態重大を思行されて一 社会施設への事業の軍

選に際し、 及くち日本 を計るべく風夜時念

統門は違に、御取り出 聖上、弘后順陛下には 格式、昨夏·月 事初 支那と相似力して中世 有様であらせられた されたが、十一月三百 う宮中御座所にて、例 東京に選師、またり、 に至るまで、夫々大事 される御規定であった ては、さきの第七十 囲の支那事型につい 一階しい経現を吹くも に御贈敬中であらせて 子師立には、前都なほ郷世年を経出地を任何されれて東洋良久の自 上水る 主の上に大御心を皆言られてある。此度の事類が生息に膨」正名認然 金したまはせられ、常に、中軍符 + 一月に割り、大水斧

一個がしめましたことは天命の個ペ

至便し、内野一難心関民的結束方

して機能性のもつがありまする 旅で第一段の管現を見たものと訓 を能むるの方針は、自し蒲洲國に

はおばならない。彼是別照我して

軍閥の環避を解せず遊し 赤子は続躍し堪へない政権でもる。 愈よ御うるはしきを拝して一般。 解析的病鬼へ如う 所謂なご併政 い世られてゐると承るだと、『機』、土地の「特」同時也第二段這一之 長賞、佐見軍令部構及資助殿下、陸一選行するべき時期を迎べたのでも一長賞、佐見軍令部構及資助殿下、陸一選行するべき時期を迎べたのでも | 住を極めてせられて、関係者が独一上に於て半島の施政に版を僅かに 網下门御身邊以愈去政務軍務解各 陛下には常中表御座所たる大本谷 され、その御物職の度は何に高ま 正年大臣らの妻内上を斬撃を来し まで、御総解事項の海絡で洗ば 一川御遊はされた事く親更にいた 政策されてよれば、 前に 食心のことと 申さればなり りまして、動師と有職後に見り形 戦をことを理事 母いるよの かるとに至った半島の質情に置み 非常に重要其一を幸なる地位に優 - 単質情勢の跳下ペラ伸進に對し ならざる所以でもります。今や此 でありまして、中島同胞諸君が職 政能的内容以必然,對并亦能分 の純一無雄なる心境合致い素地の

。5、と事り、海神を以一る、然一ながら之等は勿論時代と 既としては彼の常義的一位つて発は前紙に市債するのであ しての遊乱を同じうするに依って カー野・此で希望に輝くとなる扉 代に出せられんことを複な数字の の放制通应に備ふべき発信を係の財産を想ふ時に厳として 事變は無調素が移った

勝日本國民の自然と於とを以で除

茨

力と全き優新とを定備しなけれ、単語の如何なる。 した結結果奉書の信念を此の上人國民は過去生民には一人 聊か所
紫海で宝 内。これ有人の何

の言葉と数し 朝鮮神宮

歲旦祭 (1月)朝曜を破 新春の諸祭

式によって執行される って昭和十三年の初日が南山頂上 能且禁が前夜来参一部野した脚知 和宮可以下神職変化のもとに中祭 に野華身る一月一日午前九時より この祭は新平の作りを配し、

代。文武官總代、各道々民總代、朝鮮神官では總督以下創建首旗部 殿の三殿を始め、世撃時官、全祭で、宮中の賢所、中疆殿、津聖師の無窮、阿進い除月を組る 阿官関係社以下神社で行物が行

府民總代其他官民多数の参列があ るはずで、モーニング、又は紋付

の完始を現し、料本反射の鍵を探 れる。この媒典に萬世一系の身位 羽織様、婦人は自携数件以上たれ ある。朝鮮神宮では歳且祭所概徳 ば脂でも急列が許されることにな には午前十時上り元始是が執行さ けるによってこの名階があること 元始祭 (三日) |月三日

ナ、時局に際し、我が肉して居つた様であると思して居つた様であると思

る精神力、意思力によつ、精局それは日本国民のへ得るかを批判した結正

の人間類であるとの意

皇居を選邦する人々の便宜をはか 所を設ける め本年は特に無段右側に引用過程 り朝鮮神宮ではこれ等の人々のた

遙拜所設置 元旦二代り

本日朝刊十六頁

は前進のみ 本にあるもの

三宮內省御貸下

成と見事に同ななな辞る事の奉 光、新年の初頭に関り、國 の文化という諸関はに関係しに世界の平和、戦争及べ明日 て来る日本の点はい途比でる ものは、現代の日本國民以外

內閣總理大臣公爵 近 衞 文 麼

に東京的存在として登場した ゆる 郷新省時に於て日本は にとりて京義祖大な名伴で 日野戦争に於て日本は暗 のである。本年が如何なる歴 本の安全保障の途にない位に 東亞をして、世界の平和的概 以て東亜一連邦と安定に牢闘 安那を本来の支那に改造し、 織の一方の支柱たらしめんと たる主張と與へ斯かる家庭的

利の前には、なに最多の段階

つゝある。光祭ある最後の瞬

内に於いて、高等女母校は北部小

が如言とというないない。

新寿全部開校 上海邦人學校 的可時に復興地匹の治安を配す

資民限では三十一日から意夫及び ての指揮下にある支那人賢官百敗 音々として復興にいそしんである

こつゝあるが、之三虹ロ、楊樹雄 | 北部、中部國小學校は旣に授與を | 厩立七學校は朝春と共に会論毘校 |

非常時内閣の總師近衛首

脳西を通じ同方面の外支人は限し

いわが家で新春を迎へ、いづれも

| 1 accept | 5009 | 河南、自張山等に提聯を加へた、| 外を浴せて敵陣地に大打撃を興へ | 野宿、自張山等に援聯を加へた、| 外を浴せて敵陣地に大打撃を異へ | 天地を経路せしめた | 現したが我か方は単に機関級の名。 天地を経路せしめた

取した。自己の使命に針する体大なる國民たるの落気を立

かいる一時は配介でも、 人民の幸福な彼等の個見い

にはないのである。総し如何

ことが必要である。過去中國 爲に、更に有機的に励且する関比の金優語を國家的目的の 要とするこそのためには、 れは巨大なる國力の準備を必 に耳る戦闘によりて日本人は 際的機関を国来るこけ下 に突破するためには、

前進一人の然して、断いる場

は全然見質外れであつい

洋の安定は傾めて健康に指 力性ある態度の十分の一でも

(母の)こあらる 日本に何を

班かる 一方的にして且つ非建 といふ個見これである。これ 即ち日支間題の解決は支那を

設的な瞬喃こそ支那の排

極めて遺憾とする所である。

己の問題に於て示せる如き彈

行為に陷らしめた有力なる原 治宏をして久しい間の自殺的

と谷へる。唯七の平和の地壁

ては世界の遊歩的関系は共鳴 は最大なる状態と重脳が来りを行まれが、保守的機管から

る。今日の日本の宝石に到し

本來の支那が躍動して成長う る京盛を排除すれば、そこにを対殺し、彼等の民衆に對す 等いいはゆる長州記日の根原 下に、東亜の大局を提へて生

船に関して地つた災弱は、日南京路路の脚英米斯國の職 十分の同情と支持を音まぬで、日本は

を一層整備せればなられ 配合正確にして、持久の態勢に合きである。環境に対する認

上共産成の傀儡となり今や 江の鹿地に分散逃避しばんじ 南京陪落後の國民政府は長、つて日本政府本來の意思を訓 分の数在を感じてある所であったで日本はこれに對する十 解するが、場合ことなからんこ る。諸國も亦、此の事件によ

が世界の一部に横行しているに対し、役然たる先人的機能 問題とこ、日女問題、本質 此の強級事件とな然別例の 創造的なと観光に非ずんば、 立つてゐる。公平にして且つ つ魔児なり和英的職職の上に で来るところ関列であり、

を動物した日本としてに経改がある。最後まで彼等点反省

でもあるが、いつがでも支が

本國民の野しく遺域とすると て然るべ 一箇の対ちの概念を以て、平 れば
列國は能率と誤りたる 今日の世界不安はその様つ

國かこの先支那が共産風的基 因となってあるのである。 に状ては、此際列國も試験に

(年)と層領民師玄樹(株・織大智(村) 部線に三十日年前人時十五分豊徽(輕し、更に同人時半版人総称水眞)(時九十五分我は際Cの家は「女子(基施三十)日何恩)上部の撰釈。 【石橋三十日の恩)我か議如礼雲(教集日、藩坊、物江口、核五名県) 連項対象に破別を長下し大いです **本府十三年度豫算** 重なる新規事項 廣東郊外を爆撃 ケ月ぶりに 羅々たる爆音は天地を告述

臨時軍事教特別会計へ終入。 臨時軍事授護諸登 班田賽造工事 六〇

南總督元旦試筆

国世界から越々荷物をもつて帰宅 兵隊から機論した許可様を手に共 れ、三十一日朝米外支人十段の窓

明道だ、次して前台山間、多 頃にのかに振らぐなかに、 御 部所剛高段、南陸に出海、沿

御春を群がせられて古代末し

かくて 陛下には御正装に押 た公遠御夜を捧げしてぬ。間

も御多性の一日を過ごせられる

の释釈のり、めでたかうちにを始め各國大公使、同夫人等 白縄大便パツソスピエール男 れ、午後一時半三度出海

製を召言れ墨智院から記ばれ

且祭の御儀を行はせられる。息景は、神殿にも御親拝、伽

次いで午前五時四十分賢所、 遊げつと承るは恐懼に至りで 服と利軍の武道長人を即動だ 國八 随首、特に東西山和平東

種類ない既用、自治隆下には

上海西部占領地域への

復歸を許可す

上後国の万重に長く第三級人と雖も同様なり、市に「大変地」に、そしい「三十」甲名は、「云布し外れる市舎に集る場跡すべ、成なり、企作文のでは、智行為、尉する犯罪は、考く提生「保険に努力すべきは言を俟には

である。一個を

復興にいそしむ 可換米回視の御果留を合され 万綱の即儀を行いせられる。 殿師に変して和やかな元旦

一一在 教堂 大内山 天弘隆下には未明四

> 班を海過井、 監師の中で、 既回版を切め各山版 ""

☆ て見品陛下、身子振方と呼者地 き暗弁鱗の神候あり、大塚に 行しこを御祝り降けされ、

現別を受けさせられ、大

正以に出御、近衛庁相以下

戦に御言とひ目出版へ祈存を

詩かせられるが、更に下削す

天皇陛下には師正装に各

出版語言の拝式を受けるせら れる。午前十一時再び正版に 武殿官等の拜政を受けさせら 新春を迎へます大内山

殿河建設及改良党の追加及科一へ、初等及中等並帯門教育「ロ、阿體明徴:及移副荷

木村五海の随保

御多野々しき 天皇陛下に

青島我權益破壞の猛火 炎々天を焦す

のできている。 のできでいるでいる。 のででいるでいる。 のできている。 のできている。 のできている。 のできている。 のできている。 のできている。 のできているで、 のできて たどに及ぶるのと見られてゐる。超報事命「層爾氏會、郡校、精神

取扱貨幣兩替高京城驛出張の鮮銀 攻略も目睫の間

力而上り重ひてこられた場で選軍「競技隊は引載」「猛進」奏で北方丁「帰り目録にあり、豪家で形成は目(密古僧日同盟)表河南岸及郊南「路南原方で黒の岡山を占ってる湖」あり、山泉の軍事の要地名安の坎

「帰っ日地にあり、泰安の将本に目」解決させるものと同ぜつれる、ア 良置に満足すると云っとで事件を 表示をなした上日子政府のとつか 決定地には同時日を要すべく 精局との際につき何望か公式配見



【ロンドン三十日同盟】レディ、ス外務省より公表されたが質局は一ン首相、イー 結局無事解決せん

黎安北方十里に迫る

年度問鮮恐恨所勢所會計

賀 IF. 是革命を實現しようと云ふ時間で この三歳の強引な取行によって世

の準戦態勢

いざ開版とたれば即日関策で統領ある。しかし今後の職事に於ては 陸軍が懸熊江の分級で戦闘を開始 戦が交へられ飛行機は其の戦の中 製布告役雨軍戦火を交へるまで したのは四月末であつたのだから れたのは二月十日であつたが、 は約三ヶ月の飲留があつた間 日間戦役の既には党城が布告さ

のに經濟級、武力級を以つてし、

一環による世界芸命を輩したので

権世界が命を明へ、スターリンは 脚様されてゐる、トロッキーは連 文柱となることを目標として整備 (革命の前衛をつとめ世界) 革命の 領するのみではなく、道心で世 元來ソ聯邦の軍備はその國土を

所謂一個所分主義恩建設を唱んで

程事つたものであるが、遠にスト リンが脚つで第一次五ケ年計畫

単備を整へることに最善の努力を の国を凌仰せんとし、世界監督 一致行、加工報に於て無界第二

感激をもつて殉ぜん きる、揺目抗日を以て自家政せめぐに解版の極みと得ずべせめぐに解版の極みと得ずべ 推の強化を関り、以英称英を

支那のみならず可國をも致し

年頭所

勇と純後の勝切なる支援と借

簡単の一致に北支部型の嫡務 のたが、果然、薩所権に於ける 器し歩る 民族を言配き、追成の強策を 、一鰐即蔓の危機を開へて東距の風襲は例に急迫を告 の新春を迎へ護みて理器の 配義に抜くて焼手瞭然たり、比較能する所である。田神の 無上の慰問として阿民の心に 変を仰照示あらせれらたるは

勇能激起せる新兵は合地に運 れ、旅祭を騙って漁撃を積け

て切まない。併し冬年一百り

現状維持國と現状打破國の

ツショ同盟云々の批評は異な一概定せるに止まる、所訓ファ

内に綴るく力の接現であり、

に對し、三岐間の共间防衛を

るの時は野水を連かに特別と鹿に吹えず、雨降りて地川ま 和、東重民族の脳梁の落め阿果して繰りとすれば、東洋平

である

を致め得る所以を詳知すべき 時は関より、競役の勝利に花 總颇員し、脚つて兜の緒を続 見ゆる信形無形の國力民力を

たのである、間より防我以外

部し時代の練技物に関りては 傾消し、民心は弱一して露象

此の歴史的創造の聖器に残ず

戦は一良く戦略業員なら

得て、東京・伯林・羅馬の脳を結び、新に伊太利の参加を

れた事がある。事屋の朝鮮 相別を云爲せられ、 し、一時は守精化と室新配の

ずしも監測なられを担義せら

が、既じて選集選過を斥け、皆の苦境に降る場合もあらう

迫あり、挑臍あり、時には異 前金の磐長縦仰い発れず、

寅年にちなるで猛虎一駆山月

典に斯かる疑念は一瞬に

◆……字垣一成大符

殿徒の駁呼に明くる昭和戊 っせ給び、天津恢弘、撃三神

登員那級地の人民になる事れ 配る遺憾とするのが

御説動を採するに、羽鹿の

となり、遠からず和平解決のて、帝國の武嶽に次第に分明

列回また事態の選載を新にし 配でなければならない、今や 類も亦世界に比較を見さる。 らしむる所とはいへ城七二忠 を示した。個へに御殿代の然 恋く個代せざる者にしの気能 く飛縄せしめ、魚軍の氏殿に

たる県國一致盟制を強化すべ

を撃破せんには、一層の壁閣役の歌語せる長船抵抗の作戦

是からが即ちば三期職であり に第二期限の終結であった。 思えた、上海攻略を第一脚

機る阿岩の機類は直ちに安那

支那事製の描き由す阿煕的温。を観る限者の礼機を見る関を

関係の斯かる機器も自ら反映更に関内に限を検ずれば、

段するの発悟を必要とする

世界の部しき秩序も赤、 東洋の窓頭に茲に初めて助れ づかんとしつしある。 正に軍

一字の歌き集ひをもつて仰り

抗争して診断を競はんとして

と支援に恃まず、一日も早く 主的に解決してころ意義あり 津の問題は、東洋の民族が自 の努力を傾倒して只管時間の

浄歴史の一大領換期であり、

せんとする例家群とは事毎に

き政制であらればたらない。

大権を加ふるに至ったの帝國数は、避然として被軍権と重

は既に孤逸との間に防兼協定

希望ありとも消息せられる、

汽車 汽船による道路機

の前衛軍隊

であるとこへ云はれるのである。 | 微木聡五〇、異窓歌五、海院歌五 | 赤色葉は天恒陽立色葉と飛方的空の枝色の特徴派といるよりは大磯軍 | るか、大韓ソ 視海軍の現在勢力は | 御棚は子敷百棚と云はれてるる。 の歴史的聖業に

世界革命

異的に脱増した軍事職算が公表で 昨三七年には二百一般と質に関

真のゲ・ベ・ウを含めれば現在百 る火軍でかかるところから赤軍は は内称人民委員部に関する二十数 れてゐる。しかして常備兵の如き

八十萬人を突破するとさく云はれ 五、小親を置一〇、響催置二〇・

水上被母職一を持つて活動してる。せしめて居り、極東三州方面の配

スターリン氏とヴオロシロフ氏

が組砕した次の言葉はソ帯作軍の を着し機選が、七萬の飛行士を 行続力を或る程度までを世界に

臓に淋しいものである、又気感に 面合や見事に来る人々も残ど役目 地が微く迫方から入着するからで は我国同様機兵制度で、入侵する 關係があるたちうか。ソ聯邦は土 の人以外はない有償である。兵隊 **国迎へに來る遥い光景は見られず** もなく、除国の服も日本の如く、 や友人が賑やかに見縁ると云ふ郡 もあららが人情に當つて身内の者

族、金融、僧侶等の子弟及びコサフ クなど孔で兵役に行ける際にして れてゐて、最近まで帝が時代の食 ことは崇乱なる義務であり、プロ

と云よ高機関機があって、 主人と同じ意識の政治部に近りと

例へばこの職隊には某工地で某一位の階級を興へられてゐた。フ」と云ふ後規制機があつて、「主人と間じ首階の最常直示和 には葉九龍・現象として本く、魔器の経球に関する事件

に生を至くる吾人國民の手に 使りて、確々と完成の域に近 未行者の歴史的協議も、整代

に於ける唯一の安定勢力たる

しては他道も自頭狐狂・東盟

る同じに不測の對立既を取象

する結果、英米佛等の「持てたざ。何」として現伊と吸合

せしめたに過ぎない、帝國と

ンソで他店では買ふ権利のない一 いな首師や組金器、器物を全く主 いパソやパタの如き食物品や上 ので之を以て他店では全然状め得 ※無いと思う。

数年前にはトルグ れたいので結局根底ある機能は死 代から所有してゐた発指論、 しる巧妙なる手段によって帝政 の目方相應の切得が與へられる れ以上國民を収る事は歌底記ま

現場を見て全く可能を続じ得なか けてゐたであらう記念の指輪を加 石婦人がパソの爲に大事に身につ

等の成刑事件底後ソ聯邦では四昨年六月トハチエフスキー元帥

にこしろの改まる 断野晶子の跳はしき御代

別については、空中脳洋獣とも得

るテイベイ型の3型を電頭に4型

5型、11型、更らに時速三百折

時数千萬の大軍を作り、数、量管々として軍権に努めるのは戦を受けるといふのである。かく 記念日認技會等には此節の後援せられて居り、入除、除除或は 開催から贈わがあり、又男女

横濱火災海上除京城府鎮路一丁月三十六番地

理解し、順者の加に不可分な報告 つても果してソ聯邦阿民は軍隊を かくの如く無理だ症他の強を行

將軍統殺 で民心語ぐ

行時校がどうに様子が知たので注 は脐校にも女がるる、特に政治に 衛生、化學戦部隊に、支軍隊人で 近してみると女であつか。ソ軍に に行ったが瞬に坐つてゐる者い飛

取扱ふ人には澤山女が心る。又私 がソ軍に取付をしてるた時の事で 能や服な修理したり長點、器材が

從來國民の官組を挟れるだけ絞り 相信類に適してゐる。しかし乍ら 給自足は可能であり、全保有高も 交へるやうな機能に消退しても比 の見地から考ふるに、大體現在自 の強行政策を始める必要とそあれ ってゐるので、一度外國と親火を 終帯を極端なる網芝生活に追びや

中央自動車株式會社京城府南大門通五丁目一晋地日華ビル內)

京城南大門通二丁目 堀井謄寫堂出張所

京城精肉商組合

城

電話本局二七七九番

に女が配めてゐても何の不思議も女の公使もあるのであるから軍隊 で、女の解述工夫。女の技師長、

獮

生

貸座敷業組合

何に軽器保持が徹底的に質行さ

京城府長谷川町百拾武番地ノ武拾

京城不動產素會社

京城府南大門 通三ノ

紙

店社

朝の流説を行ったりする。一方。陵上に作ま可等あるのいえばこ的表がきて見事をしたり。強動感』でソ聯邦を主を提出せしめた何の 所既を | 來ぬ有様で、最近では外交官にも 財正工作は何時終るのかえ遊り出 概スパイ・外関通線が反革命家 等が正工作の住玉に上つた者は大 トハチエフスキー部八新軍の代司 トロッキストとの那名のもとに假 言記場不充分のものでも容骸なく 大公使、精頭がは勿論

京城府京町十一番地

東亞工業株式會社

電話龍山長三五二番

見られぬ 入營の送迎

鑑はさせられる機脈であるから総数に處せられたり、顕微辨例に

ひに信せず親子兄弟といへどもか ツ股邦を挙げて風聲砂駅 同民五

南ロシャを施行中、咸町で開格||ひて何處に落ちるかと恐怖におの

に陥ってあるのではあるまいか

國防から 見た經濟力

大ぎにソ刑邦の額熱力を展防し

朝鮮郵船株式會社

電話本局長四〇二番

京城府東四軒町三五否地ノニ

會樣

老

組

電話本局。二八三五石

京 城金 物 商 組

合

京城軌道株式會社

法社人的 木建築業協會

龍 作株 式會祉

京城府漢江通十一番地京城府漢江通十一番地 Commence Com

代表社員 內 新田

新龍山一又 二二本 雄

た毎用心要する上に兵士も網後回 められることになる。戦みに役近 三四年頃まではせいせい十三個な のソ聯の関係競雑を見るに、一九 民も異常に苦悩と愉快を積齢せし 「十五、大俊留の程度だつたのが 九三四年で蛇板に一躍五十億留 **予向からチタに豆を三方面から**単雄江地方、流出里と相封する 吸移河、朝鮮蜘蛛。さらに北部

一方とかの海軍はどうかと云ふ この返請から判職して見て上赤

色空址は少く見積つても三千五百

海と男海に主力を備へ太平岸海軍一概、一寸かけ伽をすれば七千極位 西は孤逸の兩國を充分向ふに題せ は言るかも知れない。之が主力は モスコー近邊に置き、東は日本、

完塩を期して居り、この外太平洋 はウラジオを根據地として時間に 排練の受成に態度を排してある有 る。かど多数の軍隊を有しながら 飛つて見ても最りに軍人の多いの に外国人は一概に吃難させられ

の軍隊になる都會だ。概つてソ聯を行いればなられから八、九十萬

下に動員して置くためには、英大

向けて能かれてある。

こだ。宇宙軍隊は大闘ウラジオ、

からの如うを兵力を機械時態勢

た町へ行っても、攻は交通機関に

いかではモスコーは勿論一寸し

兵力に質し我の関の六、七倍であ 教工信である。しかるにその平時

5名比壁の兵力を備へるといる事

若しも日本がソ聯邦に劣し

極東には

外に、ゲ・ベ・中所屬の漫門軍三 に過ぎたかつたことを見へば思ひ

兵力三十萬

開門場に約

丁七萬の流軍退せ兵が

行れば、現在の三、四倍の徴兵

い、意思式たる野土を繰りたがら、る。歌楽邦は全世界の六分の一と

の人口と云へは我か図の値かに

・連へて一層強く、日本人の均し、865かと云ふ疑問は昭和十二年

都要がの赤軍に本質に認るべき

们處にも

一緒には各管医型軍司令官の指揮下 にふるものと登録末年金限本部の

> 之に加ぶるに近來兵員輸送機を利 んにお5-19数の如きは四百万里 が順所便、更にイーの弦、7ない。を出してゐる7―6、5、9、6

用せる落下車降下部隊の訓練も目 岩折を約る快速醍醐機である。

陸軍騎兵中佐 (上)

兵隊だらけ

ソ批形は兵隊の國と揺されるだ。北兵十七時、騎兵四時、蜀立騎兵

題車塚、展 獨立展開若干、飛行

掛一十二百遊殿軍一千一百器、要

一瓜 爪舞一師、響像一或

万色空軍 三千五百機

そして之が現有兵力はどうで

職性に撮いなるとなった疑問であ

から、昨に吹降県間を行ってる「ボ事短以前には傷かに尹兵四間時た下がはならにてあるのである」してゐるがこの様軍軍の如きよ済とはいるとこ十九条となる「本保」とのは、は、「なくには現場でくを走る一本の

空軍である、一九三六年の暮音集

ソ聯邦の最も自負するものに赤

された全場邦ソグニート大台に

んご派空軍突長ヴィ・フリーピン

既、院兵二個師既の監察人の兵力

聞、三六年に百四十八億間、そし

至月され更に三五年に八十二億

京城府岡崎町九二帝地

雅龍|五〇九計

同 覧 同 同 同 理 總事 事 裁

田村

勘郎馬通市子亚 龙

錢龍山精米所

高渡岡木堤渡二

造官。

永

京城羅紗商組合

京城府北米倉町九拾譽三起

鮮滿拓殖株式會

時局に對處遺憾なき

を期し度いと念願し

警務局長 二橋 孝

郎

出がせ給ひ、昨最冬の交製しく侍

の諸員に對し便通なる。聖旨並合

断點に付益々其の脳化を聞り以て

軍事後援 南型の事業

航途行上の最繁要なりと職個

朝鮮の地方公共列門

辰二郎

京

旭

京城府本町二ノ八二

花

月

京

京

城

EI]

刷

業

組

合

京城府長谷川町九一

城 會

京城酒類卸商組合

京 城 府

師

會

秋田株式

株式

現

物

店

朝鮮製鍊株式會社

京城府黃金町一丁目一八〇否地

京畿道高等官食堂員

電話本 同 八二五

盛文 堂 電話本局四二六番 新 聞

會長 矢 鍋

水

郞

朝鮮鰯油肥製造業 水產組 合聯 會

京城府光熙町一丁目一八七

電本一五

七八番

朝鮮金融組合聯合會 京畿道內各金融組合

京城府長谷川町四拾五番地 京 城 出 張 所櫻麥酒販賣株式會社

治譓夫夫

合組融金鮮朝 會合聯 齋山本河 藤根田野 秀節

山本源作

商 店

-

を背負つて起つ司計提長奥山の正

京城の夜の街を彩る本物番|人の光豆をほじめ百々文、一十九| 阪柴衛町大和肚で一葉を

當り年の名妓美妓

だるる十郎に登野神の名手、京

労番には世四人の寅岐があるわけ本い三八、丸中の君勇も寅陵で本 母親、小野、参川家のいく松、

とらの土俗成C夫婦仲と

道総・光豆は若柳流の名取

石橋を叩く

奥山重正氏

川煉炭

吉良重喜氏

简并竹雄氏

領与こ野京部長し河所湾林か

大してなるが、遺任感が強いこ

入道居士

山村正輔氏

◆我等の中島の健ちやん◇昭和十 一年一月十七日第十二回神官競技

の年男を展業して見よう猛虎の勢ひで「非常時半島」を征服する官界猛虎の勢ひで「非常時半島」を征服する官別に利士三春に明朗と洋刺をぶち撤き、半島昭和十三春に明朗と洋刺をぶち撤き、半島 四つに組み、独立構成の大角 特は大きい、好談の醍醐を見む

歌する演年生れで占めてゐる事實は非常時官吏の大部分が下思議にも『おらが春』を謳殿闢艦式の强引な迫力で婚闢してゐる中堅戰時體制下の半島官界の第一線にあつて、

冴える劍劇

村山道雄氏

山地靖之氏

男で切り







FA、さいた 機ぶたお店の基別山脇りで我慢して下さ 機ぶたお店の基別山脇

山脇五三郎氏

虎島の傳説

「場けられた「南極北海」のえ

小野田

勘治

本町署長 黑澤猪平氏

るちやないかい

黏土田 商 函 際

テ

曜 會

公式會社

咸鏡北道輸出鹽魚

水產組合 心業水產 # ·

崖

鶴

附

J.li

鮮清津府

鏡北道機船巾著網

朝鮮第一巨機船底曳網漁業水產體

便

局

清津材木商組

合

 \mathbf{H} 耶 施具船員 弘津鐵之輔

科斯 這 氣 株 式 合 計

田貞次郎

清津青果市場饌 ☆話□七二○番

海洋流港工友館

金基德 電話店店

電話 二七番 電話 二七番 電話(2)三三六三番

本百貨店 電話二三三番 電話二三三番

湖土町

嶋計次

Īß

市市市市市

鶴 律

黄

國際運輸株式會計

清 津 支 店

咸北自動車**,會社

減北富寧縣前 木村商姜

基

船

會

衡

三千米七分五十秒九の一一一幅谷伊三郎氏長女とも寄ける一た思惑の下にスケートを始めさせ 生館谷美江盛一路いて京城遠江通

太阪瓦町

カ やけど・ひび・しもやけっ きりきづ・つききづ

種を合む

原因

一から治療する

今津博士の新療法完成

ぜん息・神経痛や気が

風高血壓

あれ透析所方面欄にて整念お透り れの場合は直接展費元へ御申込み 全國有名藝店にて販費せるも品切

一〇・8六章入六円の二種

ノエケルズルフオン酸にして他の「ネオタウリン」は化単组成アミ

対して、
 は、
 は

快となり末期の一クールは響しく 短く十二回を以って最好適度と十

小便と共に取り去つて原因から治 血の中に含まれた指案や老殿物を今日の如く有名になりましたのは

一時期への野龍旗法は薦心改しませいるからシビレ押へと云上停在

此川海県に頼いから頼み止め、シーり難いのであります。

就院の陳方排海諸僚法がよく致き

結核治療の代表的注射薬!

來る

雲がなければ雨は降らぬ

たがつて、皮膚の無限代謝となるのであります。 開液の巡送も住良となるため り、ペナキれるやうな強力が

大行さんにも日本の信息の良い別(こう)から取の別と疑めててたことにお祭付きたなま。 ツサーチーミナ(十二回位)よっになったことにお祭付きたなれま。 ツサーチーミナ(十二回位)よっ 一届され、自然……肌アレもサローのでは、今辺、皮膚内部の榮鍪鉄路に

िर्

つ ま

でも…

にひたして、肌及面を拭つていた。まづ最初にクラブ乳液を脱脂節 日節から類へかけて、少し力を入くりとした知的なります。 傾になります。

クラブのホルモン美容

を引ゅうプ東海クリーへ、アルは一般によれます。正しい表化粧法 もうそれで充分な地です。 からないますプリーへ、労働の関係のなら、 にボテレ、白樹やケと云と地は 紅、間楽、山紅で仕事においます。 でした、クラブ 関係が運動されてサッペリとした クラブの 健康 化粧と は、 間楽、山紅で仕事にないます。 でした。 アルカー・ にんしてつけ、泉波にのドルカー・ かっしょう ドルカー・ かっしょう ドルカー・ アルカー・ クラブの健康化粧とは?

のまけ間のまん中から左右にマッ

ラ ت

精力減退

◆糖尿病はインシュリン注射の

操作により消化管内にて破壊 症~動脈硬化等を一動脈硬化等の必ず路の関係を関係を表現である。 (臨床)政験報告集郵呈)て一般発売製剤の更化非する新華化したる新華化し にヴィタミンB及びCの治療にはインシュリ

神質元 (熊 日 本)築 品 洋 行 大阪市東塩伏克町三丁目

さき大の物質 ンセ八十•テダ ンセ三十•コヨ

复價は 旣に 定評あり 胃膈カタル 急性・慢性 肺・ろくさく 現(国) (副田 五十段 N) (本生) (副田 五十段 N) (本生) (動産 社) (本生) 特効藥

排毒素漢方自宅療法のお知らせ 原因があるから起るのです この國家非常時に隠して寸時も早 に合つたよい療法で治療して側段



ら、此様田鏡や外鏡前に精神する。からと思って現像して捨て、聞くりがみ出するのでありますか。中になって居たり、大して精まれ

コデれて送に収返し

たりして、動観をつくつた所から一根を切らずに積み止めばかりに影

飲み過ぎ

手足不自由、痛音、日夜 家庭の人もウンザリして の良繁を飢知らせ致しまえて病にてセポネ突に、に於て、患者も看護する 三銭切手員人申越次第此 また。 抗ಪ力を旺盛にせなければ中々治「りますから、一時も聞くこの理能」のつかれて具着になる事も往々あ ハレル、ウミ溜る、セキ」類固なる事、永男くここ の良薬を衰見しました。

明石市相生可元郡投所前

シノシ痛み、骨高くまが、落腹せず、悲觀せず風舞者む、かんせつ炎にてフーする程ではあるが決して

る、赤くほてる、此の病 の人はかれこれ迷ること

氣は質に恐るべき病にでしなく昔から名の高い家体

長壽圓本邸

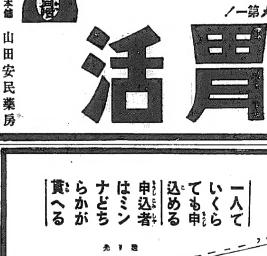
化しい思しい思ひをせねばなりま

自なまつ

がからいました。 「お急ぎの節は切手州は対人中人文の高速す お急ぎの節は切手州は対人中人文の高速す

御知らせ致します 今回良徳を頼見し渡く皆様に此の

一ノ分四の物質





社会式株コック (放大・水泉) 個

仰かせ給ぐ、時には深夜にな

新聞に御目を運ぎせ給ひ、又大|聖寺の落戦を誇き奉り、天業恢弘|首都南京に観路版として天日と共

ふるに方り、謹みて資産の解釈、 京撒及び黄河を致し最支継級第二年の新幹を理 必ず勝ち攻むれ

必不勝ち攻むれば即ち取り、北は一時的機器と相俟つて今で世界精異

時に、南は上班及

の病院たり

朝鮮軍司令官

的島関関連の他上駆除せられある

に題う 私利獲得を異変変扱に版

競って宇内の大勢を削減するに

國と共に世界所共上市西交送の重闘船の二張順伊・協定を丁して投 献を形成し、此くして我小島國

欧時政府の出現を北京に見、一方 本に親幹依存せんとする中籍民間

軍の続くたる構筑を纏の体態に、一般としての存在基礎日と共に敷配する人権でに飲地でく、正に我益・睦盆々、後く、世界・泉化行・瓢上一 ち舟んことを野望せる茶々第三國「整羅湖州國は我との一徳一心的教」 らは御芹駅の御機構受御費師予御「御芹駅遊ばすとの御ことである」「比較を其へさせられるが、晩郷が、酢に成らせられ精志徴售師として」

保留長官段下には南六十四歳

前帯を迎へさせられ御健康領々

も残ら他御済地にて御殿の御宮氏 意異にて御便り遊ばされ、殿下に

御一家をあげ て海の宮様

を願まし分はらせられつつ御

る、何に著宮妃殿下には赤十字本。非常の秋にあたらせ給ふが、海軍一六時に御起床、

き倒身をもつて各皇族殿下の内

に外に御哲

昭和十三年を迎へさせられた

頃になると危よ可服が可服らしいうまみをもつて来るの 十二月師史の蘇を聞いてから二月の末にかけてである。

と云ふわけで、「河豚だけは・・・」と女母の誠實も聞 たつて來ると何味 類は。望の 河豚豊一命を惜しまん 河豚食は以人にはいはじまぐの味や……

程にあまみがい

"ふぐ"

の卷

る本場下間からプク(下間では決してブグとは避らたい) 何所料理を撃械にしてゐる。。何服は黒隣々とまで云はれ で河豚を食はせてくれるやらになったが、其機どが下膝の

宮、開院若宮各殿下と

さるるは異

3

極みであ

【東京電話】大本營下に統師府の函覧として重貨

當ら世給ふ開院、

伏見陸海軍兩幕僚長宮殿

動を皇國に樹てさせ給ひ陣中に御舊戰の

には乗わる皇軍を親しく御統監、赫々たる



輝かしき皇太子様の御春

際に進せられ際春四月頃には魔皇たぎ、蹇何の御傷を駆げる。然へませられ、御奉宗、後を算べきせられた、幼稚園に副夢 御用意もあつて有意格者、受政生御受け遊ばされる、來必者の郷質を受けさせ給しが、御所卻軍等には軽に仰帳

新選事からは殿下御紀生の昭和八年に生れた難族の公

民に箱を重れてけ給ふのである **党攻略に輝かしい武戦を招てき** 南京御攻略の

日報の即段は即一京あげて然後期

南日御殿に卸集かになり、 悠水

2支部職機に迎へさせられた。

られた験軍中特額役官場改正明

であらせられる、御殿には常一城第一大所屬官署是、朝鮮貴族、 國人より脱貨を受け、次い三午前 益果してゐる在城領が脱ての他外 **噬〈午前十】時式場に入り、旣に** 十一時から本府第一介議室に於て 発行される。この日南總督は独軍 丁一時二十分から本府局課長 在 官、题信局各課所係是、京城府內 各局所長、各限組備人権代与が参 た於て冷酒を作べい語話的就在來唱 遞信局 日本新井時日

から周友育節大ホールで吉田局長 鐵道局 五星前下屋

at Mandrohal Orden Orden On Herball Wash Orden O

の共治

で、汽車に振られ

- ひと頃行想行機で顕然に一項びとし

2個丁を入れて皮。内、俗語、鉄、鉄河、ウグイス、トウ

仏祭郎は作一回の他しとして新年

無事救出さる

京城府東四朝町三五ノ一三の出身

たものと見られる。個人河内着は 田君が一時問題れて温泉に歸った で大騒ぎとなり、埋金したが送に 君が未だ下山して居らなかったの ところ、先に闘ったはずの大河内。た、弘助署は航中卒業昭和十年同

スキー倶樂部 城津に生る

意能大掛に人事したものである

團平船失踪

曳航中の異變

類に希望をたくえて來るのだ。生一野酸氏を施圧になってもるが、 類任一等の虎山田言人は紅顔した 京都同志社大學神景宗事生和田保 | 八日撰籍の報に一同変態に関す

| 学別の山田さんとの| 郷別を持つ

れはどうやいたのはる難し天港だ

民

正月二、三、四日

第一流品でする。

Columbia

新春の名画祭

機関は出田野川小

今茂末は除線状態を傾け、年末野(掘山電話)産よ押し結つた短山 眞や御動解の肥本等に特に切扱か の御心づくしの御祭開品を整へさもあらせられ、御浸よりは原文館 **ト電外前間であったほか。金融**

一般が原地上げて持る

不穩に越年

旭川電話] 表之

一一四日以來文 京城別四記町

社でゐたが、三十日午後人降無

るす歌謳を春の勝戦

種の四・大五組

第二〇三號第二〇三號第二〇三號

本府その他の新年式 一十八日大学山島年方面に登高。 『ご並に大河内弘明つ』の開君は

「城市」書者を問いずかられて本

を繋ばしてある、産業を展げた阿 淡い場を抱きつく結盟の被批スキ 日もスキー日和からと銀際に難る - 仏樂部が此の翻籤生スキーヤー

寒が越せない 持ね ばこの

も ず 保; 勇? 温: 氣?

一 門 是 一 書 化

第二五〇鍵 第二五〇鍵

を対象品/ 中国せる世前を設 を対象品/

音管列码

東船して航海中、劉禄比田勝神に、劉禄比田勝神に、後四、向げ大型圏平船二隻をは「後四」廿八日午前十一時下降多

フチナがたまらなく可愛いのであ 田國信局長(別)の前部に埋めたフー

泉紀二千五百九十八征安第二年の

新春拳闘試合

致化、宣應、經濟、產業

なり の大を作なくんばあるべかりざる の第三段階に向つてする路路級備

新皇軍代運長久

賀

路今後に決行すべき親叙の如何にの歐して執らざる所則ち用兵留 拘らず、銃後同胞宜しく相換へて

保留するが如きあらば、最れ野人

けふの天気

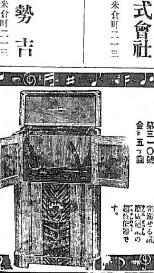
低温度等下十一度八]

不退場のは改善養価高級

リング帝一同。一般五十歳的放大回職は朱翦大。尹大州外二組 得屋で次難 1年1

内地旅行中に付年始缺 京城府三坂通一二三 来

勢 禮仕候 介町二二三



して超声にメートルをあげて「江戸ツ子におたればコロリ と巻のから、テッツで三つてるが、トミ強に減多にあたら ないんだよ。ツてな三句などもだが、ために がっては、トミッツで三つなど、トミ強に減多にあたら ないんだよ。ツてな三級をあげる、まことやよき可様を恐 れてみるやうでは、とても語せる人間ではない 意規の河豚秧畑に買は下暦の可豚科畑でのである、十段 中部郷町に開業資酵から河豚や直側にしてめ、川及に「京 態だつてやはり新しいほどうまいのが本質であるからに あれば命知らずの河核道仲間だけに通用する は下頭ものでない釜山あたりから来る朝鮮ものく 雷なファンを持っているやうだ……それで近頃で 何豚料理を全はせる店がボット とにして……最近で、京城には郷季以外に手軽に --- 幕機能の近くにある二畝など和





15 Table









誰

賀

W.







第九五〇歳 金九百九十園 金九百九十園 東京村が高い。 東京村の東京インペナーへ 東京村の東京インペナーへ 東京村の東京大学・デオー

Columbia SITAMOTUA Radi**o-Gr**afonula



最高指揮官上海派遣軍 陸軍大將 松

今日北は満洲國から北支、中支、南東に総名で成果の機器護を振しらるものと信ず 心情を思ふと言語、同情のなにたへない、唯いたずら今天田様の 新春を遊貨するのとき、職々悠久の歴史 たにするものである。既先者遺族の各位よ、瀬に各位の にあるわれら一同は、献身流図道宣揚の大業とに覺をず『激 日草旗を掲げて皇紀二千五日 1都南京を攻略し得たが、との間における共軍特兵・ 同の虫 れら一同は獻身濫國以て東亞百

人黄油江上遊に東天を採し、蓮みて無鞘の聖禅を経ぎ取り、東遠の

に異常の苦心を排つたが最単一度一計局の整備、各地居留民の引揚げ 或ひば長路空を聞いては一等が共の辿らを発らざる限り、

して最早事實上一地方軍職と類ぶ 連典政なる最節を安へ連載連勝政

著々所捌の目的を質現しつよあり

殿を依然間親する必要があり、珠 るのは属に遺憾であつた。今後は である、乃ち大元師時

難局克服の熱意に燃ゆ 北支派遣軍 川岸文三郎

開席公立普通學校

奉刑務所

友

會

金

泉

粹而職員一同

会順する國民一致結束の力なりと

す、特に鮮内官民の熱怨なる後。誠に慶祝に堪へぬ次第であり

断くて萬邦無比の國盟の精器

.公立普通學校 貝一

同能無株式食社

金

泉

祭

員警

同署

泉出張所

職

琪

振

道

Ŋ,

金

泉

处内

完

最高指揮官 陸軍大將伯爵子 內壽 描し、八紘一宇、人類和親の大

> りまして、更に非變む契機として は個々職地に於て耳にする所で



恐懼威激に堪へぬところであやかに御越年遊ばされたの。

故國門風遊

しまして御起居御 不自由の 中に絵を御する旅幾百里御武励赫々 皇軍の第 一線におせられては畏くも 金枝玉葉の 御身を以つ

に果実を採して、恭し

提なり、

一層勢力降端して

東亜の安定復興に

道道し以て

し、中文に於る友軍は上海南京の竪帆を破砕して江南

禦侮面職員一同

四餐商福岡直助商店 金屬西灣東京文(05)

金泉無盡。會社

20222222222222

企 泉

il N

H

館

金陵而職員一同 宣監

泉稅務署

稅

友

會

泉仓

金

臞

曾

Ęį. 那廳員一同

高崎合名會社 各支店、出張所 在 名 質 社

州 運長人

農

命

堀

尾

K

戫

田彌精米所 澤 貞

藤非幡

介

職

Ħ

[ii]

義州警察署

特別的金泉以購買組 世 **国**

義州公立等部小學校長 發州公立普通學 校長

日本穀產工業

大

會

īl:

壤船橋里

選其久 工農業學校長 邑

の語 大二番 運長久 州

K

會株料 社式品

桑前

H

府商

『店

旭

淸

斯くて我影兩層民は一層過くた

サゼねばなられ。一層重備を離めて共同の利益を

生きて我か してい国 金泉沿理屋組合 公泉温造館配

本五

原

水

郵

便

周

局

Ц

六

きつたっこの一ヶ年間

獨防共協定によつ

明されたことは御正當性が愈よ明確

【ローマ州日頭特電】

の勝利に輝く前進をは支那に於ける日本

戦坤一新しこゝにわが済洲帝國┃り、余は光輝あるこの年頭におい

滿洲國々務總理大臣

ベルリン三十一日發

投に光づ共図数を越えて他國に破 目的を這し得るであらり。新年の以に光づ共図数を越えて他國に破 一切に對しては难民族的自傷ある職 歴質の関係性を有する人類の職で カに對しては难民族的自傷ある職 関連秩序の政策

ジェ大陸への支明の進軍を意味す

脱し和陸する機械告した。ブリス政府に對して連かに日本と直接を

再び世界に開明したが一云を極めて思錬なものである。斯

する防共の盟き意思を 即じ、当に赤色な影を黄子ると 喜ぶと共に來る べき協定は日獨併三國の有 を原数するを持つて「暴に嫉慨」 共の挨拶を送ること外でらぬ。 先般 のロー マーなつた民歌が闘祟に勝風[歌] 邦日本の國民諸計に外でらぬ。 先般 のロー マーなつた民歌が闘祟に勝風[歌]

フォン・ノイラー

一國協定への使命

動を以て一九三七年十七に於ける日本の質際行 イタリーは 支那領土

し、他の國家集團は

的行動に

た我等の前衛(フオ

ム然も永遠に若くし

古き歴史を堅持し

あるは油に阿盛の至りにして吾人

との間に兄弟としての堅言契を精

政策は又共結合を以つて一府臨化

しめる。扇図の地位及びその國際

を示して、民國四億の民は遊に永

「ジョルナールデザヴィルジニオ・ガイダ

世界平和の强化切望

新春に逢ひにけるかもいのち生きて我やまさしくこの國つ興る

田

高泉

道立義州醫院

水原殖林種苗灣會社

型數機 近 藤 虎 之 助



朝鮮建物器會社

前國家の隆盛を新春を迎へ

運輸課長

務課長銀

神橫

助澄四郎

近藤印刷

電話101番

坂

⋒須

京東

鐵

道株式會社

電話1七1番

榮之

新

國

团

常務取締役 取締役社長

水原出張所

所長 車

茂

TI

。貨

⊼ 響店

綱島表具店

水

原

郡

廳

原穀物協會

京城電氣株式會社

原穀物商食原穀物商食

京

線

水

釜

濢

拾

Ξ

邮所

配新 111七番

田中商店

配信 三十番

本 ノ 木 五 郎 水原驛前出張所 では1 七番

大人 友

水原梅山町二ノニ七

水

原

玉澤工務所

吃話]]]帮

I JL:

神神

水

原土木管

影

太

田 田 3

Ż

何製氷工場

電話二五四番

梅山町二フ六五

閉鮮 狮子羚會社

水

原

支店

管理者

近

石

(子)

邑

兒原

固 玉齒

齒 齒

ÀГ

岱

祉

米原色

稻石

耶 明

蚁

武

農

水原酒造灣會社

央原

動

自自 自

武武武

會會會

崎建藤同店

大石組水原出張所

記話一〇三番

三高

宅 光

信 茂 壽

沿着京城一六110八市 配 話 三 五 門 面

水瓜酒造組合

鬼追自動車店

萩原通

水原本町二丁目

工

巴

面

會

服

水原郡牛栗共同出荷組合

团

水原繰棉工塲

式會 社

E

輔

坞

水原出張所 明鮮運送株式會社

產二千

石

京金科水 南

水水原原

北棉

業

水原新豊公立普通學校水原公工零常高等小學校水原公工家政女學校

記話 | 四三番 洋 水原川改修工場

司

水

原

加哉 | 四番

水原邑椒山町 計量與類

ガ川耕太郎

记話二一四番

問会

水

原

支

店

| 数 大 十 二 百 / | | | (可 於快度素殖 三部) | Hilling statement of the statement of | | 城 寛 | | | | 平三十和路 | |
|--------------|--|--------------|-------------------------|---|---|--|---------------------------------------|--------|-----------|--|--|
| | | | | | | | | | | | |
| 武 | 松 | Ĥ | 伊 | 佐 | 渡 | 野 | 富 | 矢 | 1 | 松 | 兒 |
| 者 | 本 | 石 | 森 | 方文 | 邊 | | 永 | 鍋水 | 城 | 原 | 島 |
| 黎 | 朝 | 基 | 明 | -6.5 | 彌 | 新 | 文 | 朝鮮会別相 | 京城区 | 純 | 一声 |
| 武者 樂二 | 就 | 建 | 清治 | 水 那 | 幸 | 吾 | | 歌歌 | 文文の表現である。 | | * 信 |
| | | | | | *************************************** | | | | | | |
| 鈴 | 鏑 | 篠 | 新 | 柳 | | 賀 | 三 | 鈴 | ٠,١٠ | 本 | 見 |
| | 木 | 崎 | H | 樂 | 顶 | fo | 輪 | 木 | 林 | H | 目目 |
| 青 | 德 | 哲四 | 留太 | 達達 | 走 | | 邦太 | 文 ** 次 | 源 源 | 弘 | · 德 |
| 男 | | 東東 | 太郎 | 達見 | 貧垣 | | 東東 | * 次 | 株式の大 | 與自京城 変居 | 太太 |
| | | | | | 戊寅新年 | | | | | | |
| 让 | 伊 | 和 | 大 | 大 | 戊寅新年紙上 | | 南 | 河 | 本 | 渡 | 見島高信 見目徳太 高幅 |
| | 藤 | H | 塚 | 谷 | | | 木 | 原 | | 溴 | 楠 |
| 本嘉 | 樂 | 八 | 俊 | 仁 | 老刺☆ | | 德 | 木 | 建 | 左 | Tia |
| 事 | 治 | 千 穂 | 雄 | 兵衛 | 交 | #3 | * 543 | 宗橋 | * ** | 龍 | |
| 專 | Alt | Tiex | A)E | Lis | 交換 會 | West Cambridge of the Control of the | 域 万种 | A INI | # 32 | | |
| | ₽A. | 本 | <i>!</i> !~ | 青 | - | | 木 | 分 | 平 | 杉 | 大 |
| 中河 | 松 | 森 | 佐 | | | | | 島 | | | 久 |
| 原 | 本 | 安 | 野 | 木 | | | 下 | 周 | 田 | <u> </u> | 保 |
| 重 | 正 | 敏 | 彦 | 福 | To the second | | ्रवास्त्र : | 次 | | . | 眞 |
| 中河原重吉 | 寬 | 暢 | 藏 | 司 | 同不 | 序順 | 榮 | 平 | 平 | 人 | 敏 |
| | | | | | | _ | PI | | | | 70 |
| Щ | 波多江 | 今 | 土 | 酒井 | | 古 | 塚 | 田川 | 伊 | 自 | 井 |
| 本 | 江 | 村 | 并 | 與 | 宅 | 川 | 崎 | 常常 | 藤 | 石 | 上 |
| 正 | 千 代 | 豊 八 京開港新七 | 談 | * = | 耕 | 字 | 兼 | 治 | 壽 | | 主 |
| * = | 藏 | 引入 | 並 | 声 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 造 | 作 | 源 | | 嚴 | 莆 |
| 山本正三森田秦 | | | | | | | | | | | |
| 森 | 中 | 福 | 金 | Ц | Ш | 射 | 水 | Ш | | 濟 | |
| Щ | 原 | 島 | 能 | | 脇 | 場 | 岡 | 上 | H | 藤久 | |
| 秦 | 正 | 英 | | 芳 | 金 上 五 | 達 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | *** 欽 | = | | 重 |
| A | 作 | * 朔 | * 秀 | 平 —— | 事 | 大 | 意思 | K式合社 | 郎 | 郎 | 里 政 川 田 茂 隆 |
| | | | | | 颗 | | | | | | |
| | 1 | 杉 | 木 | 大 | T H | 奥 | | 尹 | 内 | 土 |) |
| 石 | 11 | | 村 | Ė | 崎 | |) | | H | 谷 | H |
| 宗 | 治 太 | 秀 | 寅太 | | 爲 | で 日 | | | rg | 惟 | 茂 |
| 量 城 | 東 東 東 | 南 龙 | 鄖 | 原 | 藏 | 四 八 里 | | · 「 | 門內田屬院 | 型全 食 職所 | · 隆 |
| | TALITATION AND CONTRACTOR AND CONTRA | | | | | | | | | | THE THE TRANSPORT OF TH |
| | | | | | | | | | | | |

松永

> 同業組

西班牙西班 遇

若林茂商

職

可

 \mathbb{H} 大

宫明福中吉

地田迫澤原

材材材材材

水水水水水

便

一局

玉 『話七番・十二 将 米 55

富

府

會師醫科蘭田大

橋藤山牛竹十任橋

高井下屋田川 田

齿齿齿齿齿齿齿齿

科科科科科科科科

医乳皮乳 医乳腺 医乳腺 医乳腺

店店店店店 院院院院院院院院

田中喜三郎商店

支

國

獨逸

英図

使命に邁進せよ

宍站基地としての

大田產業組合

電話 音楽 香 関

西村哲次郎

貸座數組合

光鷄

蠶種製造組合

松浦牛乳搾乳場大田所介護書』

武井運動具店

堀

小野新太郎

大田旅館組合



鶴川伊兵衛商店金幣町

大田魚菜市塩

電話四五•一五〇番

郡

廳

大

H

的

FOT

議

所

可

トラツク蛛會計

八田料理

屋組合

牛高

城州

水

原利

義 組

弘合

芦田朝鮮支店

こ月水

昭和印刷辦會社

つ

大

H

務

員刑

同所

張馬所

同所

Ц

林

H 鐵

會道

道

德城川則城內明灘岑南 普普普普普普普普 通通通通通通通通通 學學學學學學學 校校校校校校校校校校校 田 大 全計 木 松中溝加 尾野部藤

大 末 寫寫寫寫 吉吉 员员员员员 豐 賣組 甜甜甜甜

忠 业 清 田 南 道支 殿西 部會

院





鮮満

如施設擴

藤井洋行印刷所

僑 城親

和

員一

同

物產株式會社

辰常

雄吉

大田皮革株式會社

闻

田 大

員議會道

林金村

昌正伊

沫煥松

尾

儒城温泉ホテル 儒城溫泉*x會社 **商工會議所**達

館

李

相

新河忠誠釀造元 株式 **長** 尾 尾商店 Ħ

| | 在鄉軍人西湖津分會 | 興南警察署 | 東南館 | 羽田葬儀社 | 東京朝上町 井 光 次 | 辰已自轉車商會 | 長野工助 | が、「 かん | 東海が神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の神の | |
|-------------------------|----------------------------|---|------------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|--|--|---------|
| 西湖出張所 | 火 薬 工 場 分 會 | | 本町 | 具:市本町 | : 小 | 自時車オトペイ別周品版文並修理部段成州那県市本一 | E . | 成南 測量 社 | 周九吉運送株式會社 | |
| 興南支店 | 帝國在鄉軍人際會 | ji Z | 磁綿啓太 | 蘇州人為興南族 | " |] - - | 才 才 考 二 L | 战 要所住者町六一 一 | B B 而事組運送店 | |
| 會社 信 日 市 | 與南魚菜市場珠會社 | 生木建 KI TEJ 大文 | 日本常数 | ñ | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | 與有而工會 | 対公乱大小 | 成果府大和町四 | 成總線前海線前 成總線前海線前 | |
| 株式 1111 | 再多多年冬七岁至位二百寅朝鲜咸锐南道與南邑 | 興南山手町組合長 | 現有松上里九 龍 里 | 金が日子不管門 | 竹之內庭陽 | # # # # # # # # # # # # # # # # # # # | | 成與府會聯員 | の朝鮮運送技式会社 | |
| 朝鮮咸南咸州郡與南 | 西游览舟第二月 | 志村勝馬 | 興南飲料株式會社 | 拉 | | 審東醫院 | 清田戊寅 | 東東測量 | 九山屋洋品店 | 0 |
| | 戡 C | | 井上酒造 支店 | | 原 市 | ij | | 成製府軍領通一丁目 成製府軍領通一丁目 | · 京科東西 图 院 | |
| 树式會 | | 藤居優夫 | 00000 | 野田吳服店 | 平 山 茂 | 東南和信連銷店 | 岩田淵太郎 | では、 の表現文部を発育する。 が、表現文部を発育する。 が、表現文部を表現する。 が、表現文部を表現する。 では、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、また、 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | |
| は、クラ | 1 | 党話三九番 | 李炫쩳 | | <u>11</u> | は や木 五 郎 | | 建筑 | 職員 一同 | A Party |
| 列 洋 火 軽 ・・・・ | 朱式會出 | 澤田智 | 原重 | 三中井支店 | 大河原仁太郎 | 佐々木連送店 | 新田貞二 | 福 助 電子 | 龍浦 画事務所 | |
| | 朝鮮窒素肥料 | 職員一同 | 原健一 | 電話 三六番 奥南本町一丁目 | | | # | 好 東府東管連 を東府東管連 | 英原形 金 時 雄 | |
| III | | · 郵 便 | 井三太 | の の の の の の の の の の の の の の | 朔日町町内倉 | 西尾組 | 白井一行 | の料理 (別) は、これを の料理 (別) は、これを ・ は、実際中央町二 | 成館三個際的 | |
| 设工 | | 成南縣南巴中天樹里 | 生 | 支店 普皮自p | 西湖津海產物仲買組合 | | - # | • | 司法掛土 金 十一次分配 基础 经收额 三胡縣 图 | |
| 咸州郡公立學校 | | 主 會 見 由 太 郎 | | 財際副智用近見 次高官 居 | 日下信司 | み さ り | 李智永 | | 地域級三海縣區 一種 一種 植 教育 東 英 商 會 " | E E |
| | 1 | | 谷國三 | 興府韓組通い | 推出 | 食 | 西澤茂市郎 | 1 - II | 雅 員 一 同 製館 面事務所 | |
| | 株式會社 | 東海水產業會社 | 奉 | 離零花月堂支店 | 新鮮成南翼南天樹里 | 升上惣太郎 | | | 和信所會 | |
| 興南 | 亲 與 錯 道 | 咸蛇 市迁成州郡西湖面扫湖里 | 馬 | 辐缆翼南本町 | 與南印刷所 | 製育松ヶ町 | 與南本町 | 奉仕印刷所 | 成鐵級鐵武廟前 成歲級蟹武廟前 | |
| ì | | 四沿海等至市 | 离 | | 門南色火城里 | を | 齊 廉 武 助 | 中尾高談 | 朝鮮選姦株文令社 | 16 |
| \(\sqrt{\pi}\) | | 可用至复数了上 | 村田三之助 | 興南造花店 | 車湖 津出 張 所 | 並ニ材料販賣のおいた。 | 11 | 成策大利可 | 对 原 釀 造 場 | |
| 電話 | | 與 南 友 | 奥山忠八 | | 会社 京城煉瓦田張所 | 東洋幽暴紅芷素品灣約店 | 逛湖郵便 所是 | 金寶 野村 商店 成果的大和町三 | 和 | |
| | 自然 | 東一銀行 | (順 次不同) | | 明 · 电 · 坛 | 興南營業所 | 咸興水利組合 | サヌキ屋 酒 店 | 日光洋靴店 | |
| 與商邑春日町 | 興 南 叟 爽 沂 | | 西湖津漁業者 | N. Friedrich | · ii | 咸興タクシー株式育吐 | | ベユヤ小間物店 場所権を通 | 1 17 | |
| 1 | 株式會祉 | 西湖漁業組合 | | 內湖町內會 | 文化旅館 | イマムラ寫眞館 | | 東東洋軍を近一 東東洋軍を近一 東東洋軍を近一 | 共新商會 | |
| 『 西松組出展所 · | 事 館 錫 業 院 發 | | ンオーストーブ | | 朝日亭 | 與 前於矿 | 艾 興耶更可 | 木材商金照淳 | 聚族 在 原 病 店 · · · · · · · · · · · · · · · · · · | |
| 東 南 士 曜 會 | | 退潮漁業組合 | 院炭小川金物南本町 | 荣町々内組合 | 双東 の 括 州 屋 双南 英語 一五八番 | 三友造花店 | 鑫德本商店 | 成为发生45万度,是一个成为发生45万度。 | 全我會社 德 興 商 店 | |
| 一月文學家之下 | 興南出張所 | 安東水產加工場 | 田中キャ | | 東京 屋が 展 店 一一番 電話 二一一番 | 1 | ş | 斯 昌 百 货 店 | 東京 金貨 組合 東京 全貨 組合 | |
| 西湖 罗太 开山 强 1 | 協 | 建以变、肥料设定 水壶品加工菜、水貯 西湖品 低 岛里 | 公 | 興南山手町組合 | が ・ | ドカア | 林 式 成 與 商 | 早一瀬 信 吉 東京 東京 東 | 建新 推高 | |
| | | 底角網組合 | 上 | i | 現南祭町 オート | 高橋音治 | 越 原 克 己 | 文 一世 興 | 域無照例 和事務所 | AU III |
| | 防 | 退潮明太 | 君の家職を対す | 春日町々内會 | 所 | 来 | 政府三湖公脊校 | ii | 應 | |
| 西彻明太羽。祖合一 | 是日 | 泰盛商事籍會計 | と 現 南 本 町 | 東マッエ | 退湖市是 李 连 龍 | プロ 製革 万 | 政府至周冕更示是 地名 田民 助樂 房 成樣 新土扇前 | ri | 洪 原 出 張 所 成興タクシー株式會社 | |
| | | 10 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 | 接仕立高等洋服 | グ格 | 西山 古 喜 一 | プロジル言 | 名取前店 | D | 長田鐵工所 | |

| | | | | 31 | | | + t 0 CO | すったにしいお正様まで坐つてて 土土の た風水・君が代々が | ואנות נו קעניייים | 育林久雄 |
|--|---|--|--|--|--|--|-------------------------------------|--|--|--|
| | | 特良酿造合资會社 | 方魚洋酒造器會社 | 显 西村 | 融員一司 | 13 19 | 7ボー(ンテ) * ・ | 火 類もいつに なくお頭 そうで 二 コー くお類、そしてお | 既をする事に決めたのです。タ方 ・お神たせしました。これから | (E |
| 田治一 | 太 | | | п | 瑞典警察署 | | 1 2 6 | つしやいます。例にはおばあ様の・・ウム・・・とうなづいて見ていら | やん。今に出て来たのは言う | + ! !!! |
| 京域日報背山安局 | 1 | 高温 | E A | | | · 14 | | | ٤ | |
| A | 1 | 是 | 京日放三 | 柞 | 瑞凤烟草制作組合 | | | | 夜に何でも好きな事をしてお遊び ・オメデスウ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| \mathbb{I} | s g | 11 | | 班出版 日 后 英 | | | | | 戦・晦こは | 温 |
| 金融組合 | 市合 | - | 14 51 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 | 朝鮮開拓株式食社 | | 15 27 | 3 . | | て來ま | S VI |
| 金融組合 | 方魚雞 | t. | | 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 | 主旗谷上 | | 3 | | から き気流をしたとうだ。 されいな遊覧を超ておりポンをか | /; /; />/ />/ |
| | | | 1: -1: | 張る。 | 現 到 対 館 | . 16 | 70 | | | |
| , 1 /17===== | 金佐性_ | 金澤 | 野山區 | ĩ | | | - C. C. | | 正月つて恋つたものよやうた氣かしなる。お向ふのみとらやし、あや・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| 月一同 | 職 | THE REAL PROPERTY OF THE PERSON OF THE PERSO | | 11 | 北川公立普通學校 | . 2 | | | すけど | The state of the s |
| 野山前問具患宗神台 | 原山高事政會元 | 國本久吉 | 企 東 昊 | TAND | | 3. | | | お旧月になったからでよりました。なられた世人には、これに、いかに関連をいたといたちやあないか、コウノーと際えてゐるストープの | |
| | | B | 大块。长 | 度每 以 則批合 | | | | | 別もお保証をお記ひして、お餅やます |) |
| 安孝式 | 震音 安 | | 对村村 | | 瑞典公立經濟小學校 | 18 . | | | (# | 一、 |
| | 蔚山消防組 | 游山 產業組合 | | | | 府一既殿の式をご想像下さいませって一で自動車が滑つて危険であります。 | とニコリともいたしません。大杯 | | ので、スマ豆種でいつ味るのよう「ローベーンよんな説がい。がし、お田月つて、何に乗つて来る一番だいらつしていました | |
| 1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (| | ###################################### | 1) 1) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 延海水利組合! | e e e e e e e e e e e e e e e e e e e | 放送によってこの影響した、路上にゐる多くの韓 | の概をつけた影響を飛じてつく | | やる、お願文様と、お配母様か一 | |
| 武房吉 | 局員一同 行 | 松山柴 | 大岘產業組合 | | 出上邓曼雪 | ult、就に残忍主格でありますが、 よれ、呼鳴頭が就を小とく受ける Clを持一オーナーファストライン (大萬平万風の土地は頭の大蒜に藤) | ことうに正力、として軍人用の私 | 大切そうにさすりながら、ウム…」りかけたる大太鼓。それはおばあせる当に、これ後の長し太振を「よって大士しめであります。 刷よ | △↑□□ は難しくてたまりました。すぐ近所の機局所にいらつし 日本本まで月を長つてましたので、「サンタ | () () () () () () () () () () () () () (|
| | 野川 | <u>B</u> | | | | P. ここのはようなはいのでは、コーサウスウェルスの北東の村 | 物質 | と、大きじめ。おちい様は床 つらくは五郎君の赤い韓軍権をか | やれく皆らめでたうござん | Turk to the total total to the total total to the total total total to the total tota |
| | | | ş | 外曜夏一回 | 11111111111111111111111111111111111111 | いて歩 | 軍服、総甲、概然と輝くお胸の職章散・・・・・年は儀に六歳・・・りょしき | 三郎君、元祭成る人指揮によって、祝妻してずけ、治知事を降、後長け | 機は十二になるんだぞとのでない事気やのうーと | conce |
| 九加 | | 理申吉田義男 | 外 脉 | 整 中之欣一郎 | 職員一同 | いるエクボの望らやんは、うつむ | 我が島軍の最高指揮官チー | でありませら。トップをきつて入 | - | 6 |
| 貞 | A Min | 報食 尹 徳 錦 | | THE PARTY OF THE P | 五世子がある | 黒い似肌・腕に巻いた赤十字 | ķi a | _ | 出 | أ لإ |
| | 負業 | 감 | | | 理面になれている。 | んつかちゃんであります。三ち | 生性ラッパがありませんので、一 | | ない。 | (#) |
| | - 55 | | 芝陽產業組合 | 延安已暨師會 | # | はやさしき最級の花一台のこと、チー | してを | | トラデモのな | |
| · description of | | | # 1 | 1. | | つようりませんかって強く文武百官・文献、お母は、そしてお李様は勿ら、神々しくも子能を選集のですかれて、「マニル」。まず、『見子集』: | まじいうなりを立てて、力騒いわれ、治の労労権の政力をした。つる | | るのではなった。 | () |
| T | 步 | 外聯員一同 | | 111111111111111111111111111111111111111 | | 歌としてきょ人れられれるの英い | 思ひがいたします。只今この上空 | さんがおもむろに立上りました。 | 量易 | Se Man |
| EI . | | 原作品品 | 金股安岡幸營 | i de la companya de l | ことへ | に解析に不用だと申しましても、 は皆さ | 自公と | | | |
| | 夏 有 道 會 議 員 | | 张 | 延白醫泉署 | - 長 | | | | | A STATE OF THE STA |
| 111111111111111111111111111111111111111 | | | | | ・ | | 目近りします | | 一十八郎何を設引したのですが、常一木にゴシーとすりつけるやりにし、出か明たさうです。 おもこさんば、に勝手で虎の手を押へつけ天きた | ************************************** |
| | 1 | | | # 1 | 一分上。正 | | 機、目階にはみなさんにお | | 昔は度々茂の | (|
| 長 會一 + | お山の野 | 中谷德一 | 高 夏 禁 | 1 | では | | た、これから楽にかけて土 | | 何しろことの向はずつと西へ他人 × × × | |
| | | 背山 學校組合管理者 | 投 | · 多 版 治 | | に世界の | - 20 | | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| 艦 | 新山郡 | 11 11 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1 | | U | | | りこうなので動物図のおち | | た時度はすぐ手前まで来て | *** |
| | | | 交直新到来看 | 分兒 京城府薪堂町 | 一部門や一 | | · 1) | では、他人をおくて | のた率さんと戦日銀に出かけまし、率さんは二酸目を破別しようとし、 人们すぐ近行かけましたカ友質で | |
| | | 幸 本 田 以 之 | 英山西山北 | 永野齒科醫院 | | | した生物の日本後がご覧の | | いさんで友達のこれも頭師をして、よう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| | | 等 山 母 最 新 | 亚山处务署 | 安安 | 多一 | STATE OF THE STATE | | | おちいさんがまた四十艘線の頃だっかけると見せかけてすぐこちらへ | + J |
| III é | 涼山金 | | 19 19 19 19 19 19 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 | ا ها | | 2000 | 昌慶苑の | | との一時打ちのお話です の所へ命申したのですが、虎はこ | |
| | M. Comma | | 及与新州部分 | , 改, 一 可 | | | 自轉車に乗る | から引つことも用 | くれた鬼。だったのでせる、母丸は虎のお尻 | |
| 1 | | 期山邑內杉長會: | 正是是加州 | 安公立職部両婦小品は | | | 八年間もかくるさうです | いさんは一印だといつて駅に疑つた一つの爪」おり、さんはよくこの時の特徴の一 | たおちい一時の眺 | |
| ********** | | | 延安露出張所 | | | ? | 600 | × | ※※※※ | 人人 |
| _ | | | | 清綱 繁人 | 金仁洙 | | りません、この運搬は三ヶ月ですの声さの山本を模倣したわればり | 村へ返げる人間にようが人でるす | これ 一直 | |
| | | 1 | | | 項與邑 | 10000000000000000000000000000000000000 | だけくに | ・・ のものはい爪でを身をひつかられ | 近長子皿をして加助 | |
| | | · | を 全 軍 表 三 | 皇値の井放館 | | Ż į | -82≥ ′ | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | とらとかくとうした おはな | 3 : 2 |
| 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 | 60 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 0 | 遂 | 逐被銀行延安支店 | 延安温泉 | 罪須 田 豊 次 | こんな事になってしまひました。 | バス間で思かっ五百種の保護機能がリビア・アンデスの脳行機にラ | ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 数心を見ても逃げぬ | (1) |
| | 蔚山薩造給會社 | 11 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1 | ###################################### | 量 大關拳大郎 : | 是现金的用金。 | 首都攻略 | 雅 | | | |
| 宗 | | | | 延安企业組合 | | | お前アメリカ・・・ | | | No. |
| | | | & 四村一 不 | 7 | 陰三 | んは、ママに叱らかと、概心してゐたのでした | | | アクライトを振り | |
| >0 10 10 10 10 10 10 10 | 門丸貞夫 | 11 12 13 14 14 | 班安公立政策學校 " | 公司列男 | | ママは笑つてしまひます。 では、パペヤママまで穿つてるの「おほ」 を見ては、デバートとしょところ | 世界決處 | | | |
| 万魚洋營業所 | 山田殿所長 | 11 | 91 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1 | British Haller Schuller | 邓 員 一 同 | 三三越で安つてたよ | • | | | B. B. Ta Vara La |
| | 香香(| 蔚山醫友會 | | | R I | てるの」 人形を見ましたし、また、立御た | フコドモの | | いたが | 2 |
| 深 简 古 | 農林 | J. 4± | 消防組 | 延安 | 極州刑務所 瑞興支所 | Tableではおやんを何此で受つ一腕の所物を来たママみたいな女のママは観をみはります。 連れて行ってもらふ度に、新しい | | | しいいというできた。 | н (|
| | | | | | 1 | から、ほかのパパを買ってね」の続うやんは、いつもデパートへ | 北和城郡蔵州面郷一蓉(投) | | | |
| 兵營長造職會礼 | 村井定一長賞 | 夕日上屋一一 | | | 白壁嘉果 | 「は、ママロのしなべいいらない」して、日曜日でまなかったのです。たりをします。 | 10. 1 | | | 1 |
| 14 | | | 電話二〇番一 | | | 数が見えなしなると、ママにおね の音素を集つてすませま | 小さい作分・変圧所な影響に見ば、現の姿を見たこともありませんが | | | - C |
| (1) (1) (1) (1) | H H H H H H H H H H H H H H H H H H H | 游山蜂祭署長 | 凹陷后 | 延安保 | 主会光师 | そんに時、排むやんは、オパの一パパもママも、無償、耕ちやんがあります。 | 4 | | | 72 4 |
| 平 3折 | 彬 | | | 10 10 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 | 金 剛 果 樹 賴 | プローババに叱られること 「はょう。ママを安つてるかい」 | 4 | | | 100 |
| 丸二計切首標準計五百分會社 | 銀白甲和防山支原長 丸二青切片 | 南山:造組合 … | 和農會 | 延白 | | はは、一般自者なので、時々、ほかのママを買って来てと | 0/ | | | (|
| 当は大豆 | 1 | | • | 及一直 | 岡崎貫一 | 大つになったはかり がむのです。 | コドモ | | | 山いの智恵 |
| が明明を見ること | i i | 等 1 兄 务 暑 | | E | 瑞興郵便所及 | パパ質物 なることもあります。 | | | | , |
| | | | | | | | | | | |

| **= | | | (可認物便発展三部) | 兼斤 | 城京 | 3 | 日一月一年三 | |
|---|--|--|---|--------------------------|-------------------------|---|--|--|
| 大同株業株式會社大同株業株式會社 | 明日電機工業機の大災者 穴見主馬一代災者 穴見主馬一代災者 穴見主馬一 | TAME TO THE TAME | 養 茶商 | 松 點 景仁 | の田支店・一番 | 平壤警察署 | 大同警察署 | 下填穀物店組合 |
| #################################### | 資 岡本直治郎 | 電影 | 在 | 平壤放送局 | | 本 | 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | 可同同同同日子大大中国的同时日子上海東北北海東北北海東北北海東北北海東北北海東北北海東北北海東北北海東北北海東北 |
| 大同郡農會 | ^輸 輸 本 下 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 | 今 井 祐 次 郎 | 要は カルシューム 朝鮮平均府福口町 要は 祭用 を 物 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 | 大同運輸 音配 音 | 平壤府鹽店里 工作 | 桑 谷 寶 事 土 曜 會 | 平寒地方專賣局 | 村 中 正 一 |
| 東田 米店 東田 米店 | 朝鮮飲料給曾社 斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯斯 | 金融版 取印 温 人民 医皮肤 | は、 力が大きょう 力が大きょう 一世 には、 一世 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11年 11 | A 大阪 | 主 | | 企銀商組合 | |
| 中等學校長協會 | 平 壤 事 務 所朝鮮煉炭株式會社 | 平镶土木建築協會 | 平東府海町 | 江 西 申 合 會平廣吳服商組合 | 新酒 喜 人 松 | 東洋製絲株式會社 | 平壌道立醫院 | 同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同 |
| 內地人貸座敷組合平壤府縣町一 | 平壌辯護士會 | 平壤材木商組合 | 平壤大和町 便 局 平壤大和町 | 原泉無煙炭礦**會社 原泉無煙炭礦**會社 | 朝鮮無煙炭鑛 東 光 雲 會 | 學 灣 灣 灣 管 后 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 | 平壤稅務監督局 一同 | 平壤與業株 會社 |
| が 本 で で で で で で で で で で で で で | 和信平壤支店 | 松尾六郎 | 平寒無 | 平 | 平塊府黄金町六〇 | 平壌水曜 | ************************************* | 赞井手 宋 次 |
| | 朝 | 大日 | | 壌 | 平塊府黄金町六〇番地 安全町上間雪 話八四三番 | 曜會 | | |
| 平 | 鮮工場 | 大日本製糖 ^珠 會社 | 平壤焼酎釀造組合 | 製造株式會社製造株式會社 | 平壤酒造組合 | 平 南 道 廳 | 不壞船橋里 | 合同電氣器會社 |
| añe. | <u> </u> | 0 | (B) | | | | | |